

明日から職場で実践できる

新しい転倒骨折事故防止対策

- 未然防止策と損害軽減策の活用とは？ -

認知症の利用者が突然立ち上がり、近くの職員が駆け寄りましたが、間に合わずに転倒しました。家族は「きちんと見守っていれば防げたはずだ!」と主張します。しかし、どんなにきちんと見守ってもこの事故は防げません。本セミナーでは、こんなジレンマを抱えて苦闘する現場に、新しい転倒骨折事故防止対策を提案します。半分の労力で2倍の効果が上がる防止対策です。

・事例検討の事例内容→<https://bit.ly/3XmtqJc>

セミナーの概要

1. 職員が近くに居れば転倒は防げるか

・転倒防止実証実験のデータ

2. 転倒防止対策の問題点

・防ぐべき転倒事故と防げない転倒事故
・転倒事故の原因は職員のミスか？
・職員の手で転倒は防げるのか？

3. 転倒防止対策の新しい考え方

4. 転倒事故の原因分析方法

・利用者側の原因(服薬や疾患など)
・介護職側の原因(介助方法や知識不足など)
・設備用具の原因(車椅子や滑りやすい床など)

5. 転倒事故防止の具体策

・転倒リスクの把握(アセスメント)

・新しい3つの転倒防止対策

6. 防げない転倒事故への取り組み

7. 転倒事故の事例検討

・センサーを他の利用者に回したら転倒骨折、過失か？

《2》転倒防止対策の新しい考え方

転倒事故は3つに分けて対応を変える

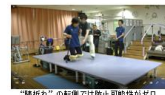
	過失	防止義務
○直接介助中の転倒 《例》歩行介助中の転倒	大	100
○間接介助中の転倒 《例》見守り中の転倒	中	50
○自立動作の転倒事故 《例》居室での転倒	小	0

防止

●転倒防止実証実験の結果は？

1. 歩行介助中の転倒事故【職員が付き添い歩行中に突然起こる転倒を防げるか？】

転倒の仕方	転倒防止回数
歩側へのふらつき	9回/10回(90%)
つまづき	2回/10回(20%)
踏折れ	0回/10回(0%)
合計	11回/30回(36.6%)



"転倒"の転倒では防止可能性ゼロ

2. 見守り中の転倒事故【近くで見守っている時に突然立ち上がり転倒するのを防げるか？】

見守りの方法	転倒防止回数
じっと見守っている	3回/10回(30%)
見たり見なかったり	3回/10回(30%)
作業をしながら	1回/10回(10%)
合計	7回/30回(23.3%)



"すぐ転倒"と転倒は全く防げない

職員の手で転倒はほとんど防げない

2

※参加者のみなさまには、「転倒防止実証実験レポート」を差し上げます

無料オンラインセミナー開催要領

■開催日時: 2023年4月24日(月) 13:30~15:00

■主催: 株式会社安全な介護

■講師: 株式会社安全な介護 代表 山田滋

■参加費: 無料

■参加方法: Zoomによるオンライン(接続PCは3台まで)

■申込方法: 下記URLからお申し込み下さい(4月17日締切)

<https://bit.ly/400BwgU>

お申込みいただいた方には、締め切り後に視聴用URLとテキストをメールで送付いたします。

講師プロフィール

山田 滋 早稲田大学法学部卒業と同時に現あいおいニッセイ同和損害保険入社。2006年7月よりインターリスク総研主席コンサルタント、2013年5月末あいおいニッセイ同和損保を退社。2014年4月より現職。高齢者施設や介護事業者と取り組み、現場で積み上げた実践に基づくリスクマネジメントの方法論は、「わかりやすく実践的」と好評。各種団体や施設の要請により年間150回のセミナーをこなす。

セミナーに関するお問い合わせは

株式会社安全な介護 受付担当 澤田

mail:soudan@nanasha.co.jp TEL:03-5995-2275